

令和8年1月8日（木）

那覇市健康部 那覇市保健所 保健総務課

担当：大原、砂川、宮城

電話：098-853-7972

報道関係者 各位

本日、水痘警報・インフルエンザ警報を発令しました

定点あたりの水痘（みずぼうそう）報告数は、最新週（第1週 令和7年12月29日～令和8年1月4日）の那覇市内の定点小児科医療機関6ヵ所の報告より、2.00でした。

警報レベルの基準値である2.0に達したことから、本日付で「水痘警報」を発令します。令和2年（第1週～第2週）の警報から6年ぶりとなります。

水痘は、発熱とかゆみを伴う発しんが全身にあらわれる感染症で、肺炎や脳炎などの合併症を起こすこともあります。水痘ワクチンの1回の接種により重症化をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症も含めてその発症を予防できると考えられています。

那覇市の水痘ワクチン接種率は、令和5年度83.27%、令和6年度79.34%と下がっています。まだ接種していない1歳～3歳未満の幼児の保護者は早めの接種をご検討ください。

同時に、定点あたりのインフルエンザ報告数は、最新週（第1週）の那覇市内の定点医療機関（小児科6、内科4、合計10）の報告より、32.8でした。

警報レベルの基準値である30.0を超えたことから、本日付で「インフルエンザ警報」を発令します。令和7年（第1週～第5週）の警報から1年ぶりとなります。

症状がある方はマスクの着用や安静にする等、周囲の方、とくに基礎疾患のある方や高齢者の方へ感染させない配慮をお願いします。基礎疾患のない小児でも重症化するおそれがあるので保護者は観察をお願いします。

警報の発令は、大きな流行または継続しつつあると疑われることを意味します。

手洗い、換気、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。

【参考】

1. 那覇市保健所「水痘（みずぼうそう）警報発令中」

<https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyou/kansensyoubetu/sui.html>

2. 那覇市保健所「インフルエンザ警報発令中」

<https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyou/kansensyoubetu/influ.html>

那覇市保健所 水痘(みずぼうそう)

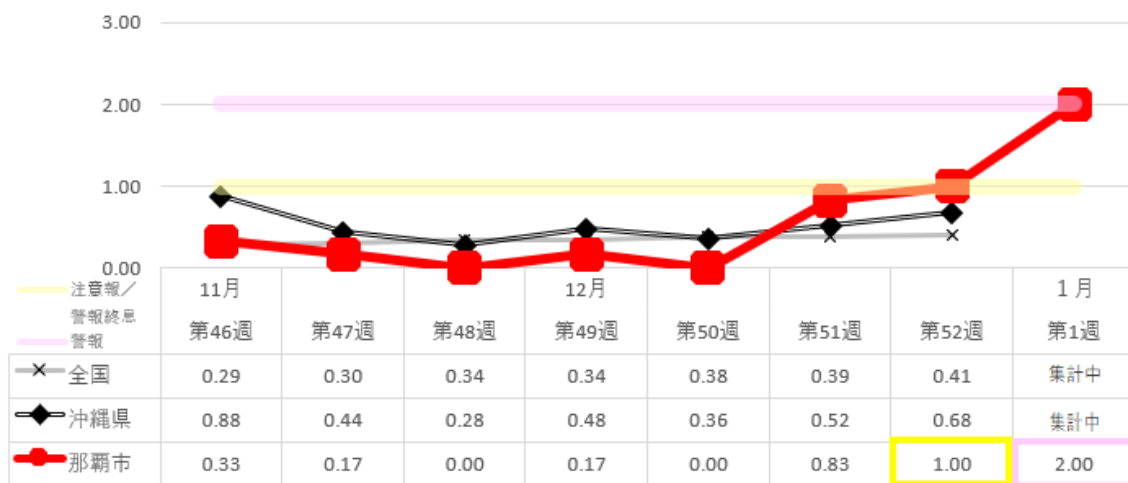


那覇市保健所 インフルエンザ



1. 那覇市の流行状況

那覇市・沖縄県・全国における水痘定点当たりの報告数



直近8週における年齢別の水痘報告数(那覇市)

月	週	報告数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上
11月	第46週	2	2	0	0	0	0
	第47週	1	0	1	0	0	0
	第48週	0	0	0	0	0	0
12月	第49週	1	0	1	0	0	0
	第50週	0	0	0	0	0	0
	第51週	5	1	2	1	0	1
	第52週	6	0	3	3	0	0
1月	第1週	12	2	8	2	0	0
合 計		27	5	15	6	0	1
割 合		100%	19%	56%	22%	0%	4%

【参考】那覇市の感染症発生状況(週報等)

<https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyou/hassei/nahashijoukyou.html>



2. 水痘(すいとう)とは

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる、かゆみを伴う発しんが全身に出現する感染症です。

空気感染、飛まつ感染、接触感染により広がり、感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2週間程度(10日～21日)くらいとされています。

主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。合併症は、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、髄膜炎、脳炎などがあります。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。

成人での発症も稀にみられ、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

妊婦が水痘を発症すると、妊婦自身や胎児・新生児が重症化する可能性があります。

3.主な症状

発しんの発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発しんは紅斑(皮膚の表面が赤くなる)から始まり、水疱(水ぶくれ)、膿疱(粘度のある液体が含まれる水ぶくれ)を経て痂皮化(かさぶた)して治癒するとされています。

4.感染予防

1. 水疱(水ぶくれ)に触れた後の確実な手洗いやタオルの共用を避けましょう。
2. 水痘ワクチンの1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。
 - 水痘ワクチンの定期接種は、1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日までの子どもを対象としています。
 - 水痘の感染歴や予防接種歴を確認しましょう。
 - 水痘が流行している家庭内や施設での予防では、72時間以内の水痘ワクチンの緊急接種による発症の防止、症状の軽症化が期待できます。

5.水痘にかかったら

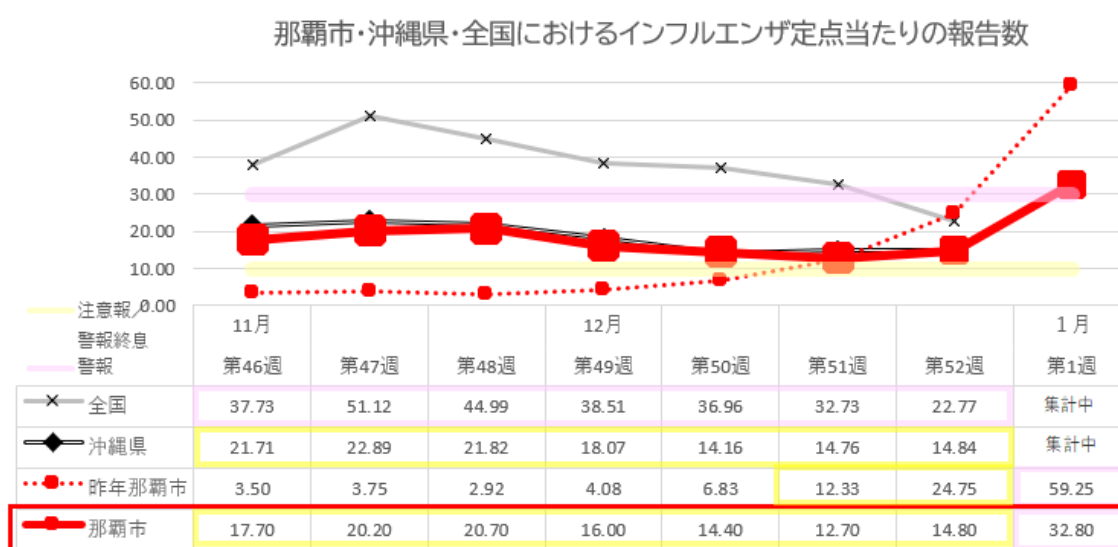
- 対症療法になります。
- 発しんなどの症状が出現し水痘を疑う場合、医療機関に電話等で水痘の疑いがあることを伝え、受診してください。
- 感染を拡げないために、学校や保育園を休むようにしましょう。
学校保健安全法により、水痘と診断された場合の登校・登園は、全ての発疹が痂皮(かさぶた)化するまでは出席停止となります。

6.保健所における把握

1. 水痘の流行状況については、那覇市内小児科医療機関6カ所の協力を得て、患者情報を週単位(月曜から日曜)で収集し、全国約2,300カ所の定点情報と併せて分析しています。
 - 注意報レベル:定点あたり 1.0 以上
 - 警報レベル:定点あたり 2.0 以上
 - 警報終息レベル:定点あたり 1.0 未満

※ 警報・注意報について、国立健康危機管理研究機構より、「定点数の設計等が変更された2025年4月7日以降の患者サーベイランスに直ちに当てはめることはできない。なお、従前の警報・注意報をコミュニケーションとして使用することを妨げるものではない。(一部抜粋)」とされているため、那覇市保健所では令和7(2025)年4月6日以前とおり警報・注意報を行います。
2. 入院を必要とする水痘患者は、医師からの発生届により全数把握しています。
 - 厚生労働省「感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について【水痘(入院例に限る)】」<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-140912-2.html>
3. 社会福祉施設や学校、医療機関等から、集団発生事例などを情報収集しています。

1 那覇市の流行状況



直近8週における年齢別のインフルエンザ報告数(那覇市)

月	週	報告数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳以上
11月	第46週	177	27	33	32	38	34	13
	第47週	202	38	36	35	19	55	19
	第48週	207	37	40	29	32	55	14
12月	第49週	160	29	44	26	17	33	11
	第50週	144	29	33	19	12	33	18
	第51週	127	26	31	15	13	32	10
	第52週	148	17	37	33	11	34	16
1月	第1週	328	51	25	41	34	147	30
合 計		1,493	254	279	230	176	423	131
割 合		100%	17%	19%	15%	12%	28%	9%

- 那覇市における第1週のインフルエンザ型別内訳は、A型133人、B型4人、臨床診断・型不明191人となっています。

【参考】那覇市の感染症発生状況(週報等) <https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyou/hassei/nahashijoukyou.html>



2 インフルエンザとは

- インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。
- 38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻水、咳等の症状も見られます。
- 子どもではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方では細菌による肺炎を伴う等、重症になることがあります。
- インフルエンザは流行性があり、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。

3 感染症予防

- ① 食事の前や帰宅後には、必ず「手洗い」をしましょう。

- ② バランスよく栄養を摂取し、十分な睡眠をとりましょう。
- ③ 「マスク」を着用しましょう。
- ④ 3密を避けましょう。
 - ・ 換気の悪い密閉空間、人が集まる密集場所、間近で会話する密接場面
- ⑤ 室内の換気に気をつけ適切な湿度を保ちましょう。
- ⑥ 予防にはインフルエンザワクチンの接種が有効です。
 - ・ 現行のインフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありません。しかし、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があるとされています。
 - ・ ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後 2 週から 5 カ月程度と考えられています。
 - ・ ワクチン接種回数は生後 6 カ月以上 13 歳未満:2 回、13 歳以上:1 回(または 2 回)。

4 インフルエンザにかかってしまったら

- 安静にして休養をとりましょう。
- 感染を広げないために、会社や学校を休むようにしましょう。(※1)
- インフルエンザ発症前日から発症後 3～7 日間は鼻やのどからウイルスを排出するといわれています。そのためにウイルスを排出している間は、外出を控える必要があります。
- マスクを着用し、咳やくしゃみをする時は「咳エチケット(※2)」を守りましょう。
- 基礎疾患のある方や重症化の予兆(意識状態がおかしい、呼吸が速い・苦しい、症状が長引き悪化している)が出た場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

※1 学校保健安全法施行規則では、インフルエンザに罹患した場合、発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日(幼児にあっては 3 日)経過するまでは出席停止です。

※2 「咳エチケット」とは、咳やくしゃみが出ているときはできるだけ不織布製マスクを着用し、とっさの咳やくしゃみの際にマスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、顔を他の人に向けないこと等です。

5 保健所における把握

1. インフルエンザの流行状況については、那覇市内医療機関6カ所(小児科 6、内科 4、合計 10)の協力を得て、患者情報を週単位(月曜から日曜)で収集し、全国約 3,800 カ所の定点情報と併せて分析しています。

- 注意報レベル:定点あたり 10.0 以上
- 警報レベル:定点あたり 30.0 以上
- 警報終息レベル:定点あたり 10.0 未満

※ 警報・注意報について、国立健康危機管理研究機構より、「定点数の設計等が変更された 2025 年 4 月 7 日以降の患者サーベイランスに直ちに当てはめることはできない。なお、従前の警報・注意報をコミュニケーションとして使用することを妨げるものではない。(一部抜粋)」とされているため、那覇市保健所では令和7(2025)年4月6日以前のとおりに警報・注意報を行います。

2. 社会福祉施設や学校、医療機関等から、集団発生事例などを情報収集しています。